

日本植物園協会ナショナルコレクション申請書

新規申請

更新申請（認定番号 認定期間 年 月 日～ 年 月 日）
（いずれかに）

■申請年月日 2020年10月5日

■コレクションのテーマ

能登地域に残る江戸キリシマ系ツツジ古木群

■申請団体・申請者名

特定非営利活動法人（NPO）のとキリシマツツジの郷

■申請団体の代表者名（個人での申請の場合は不要）

理事長 大 路 篤 夫

■申請団体・申請者の連絡先（住所、電話、メールアドレス）

非公開

■コレクションの所在地（コレクションが分散している場合は主たる所在地）

石川県能登地域 宝達志水町以北全域 356 ヲ所

■現地審査希望時期

2020年10月8日～ 年 月 日

希望する理由：小林、倉重両氏が能登に講義のため来られるため、その機会に審査をお願いしたい。

■コレクションのテーマ

能登地域に残る江戸キリシマ系ツツジ古木群

■コレクションの概要

ツツジの栽培は、江戸時代の寛文から延宝年中（1661～1681）に流行し、この時代を中心に数多くの新品種が作出された（伊藤 1692, 1695; 水野 1681）。なかでも 1656 年に薩摩の霧島山から大阪を経由して江戸に移入された‘本霧島’（伊藤 1733）はその濃赤の花色が高く評価され（伊藤 1692）、ツツジブームのきっかけとなった。

本邦初の園芸書である「花壇綱目」（水野 1681）に掲載されたツツジ類 147 品種のうち 15 品種に、またツツジ類のモノグラフである「錦繡枕」（伊藤 1692）には 337 品種のうち 19 品種に“一霧島”の名がつけられている。このことから‘霧島’が江戸に移入されてから 25 年の間に多数の‘本霧島’に類似の品種が分化、導入されたと考えられる。現在、‘二順霧島’など、類似の形態を持つ常緑性ツツジ（ツツジ属ツツジ亜属ヤマツツジ節）は江戸キリシマ系品種群と呼ばれる（赤羽ら 1979）が、大正から昭和初期にかけてクルメツツジやアザレアの台頭によって人気は衰え、商業生産も減少した（倉重・小林 2008）。そのため、近年まで残る古木と古品種は共に数少なく、古木群についても群馬県立つつじが岡公園や東京都の六義園など、関東を中心とした庭園でしか知られていなかった（小林ら 2003）。

2005 年からの NPO のとキリシマツツジの郷、島根大学生物資源学部および新潟県立植物園の合同調査により、石川県能登地方には個人の庭園を中心に、江戸キリシマ系ツツジの樹齢 100 年以上の古木*が、いわゆる奥能登（珠洲市、能登町、輪島市）を中心に 500 個体以上現存し、品種についても 7 品種（本霧島 278 個体、蓑霧島 19 個体、二順霧島 40 個体、八重霧島 62 個体、紫霧島 26 個体、紅霧島 3 個体、四季咲霧島 5 個体）および品種名不明の「けら性」と呼ばれる‘本霧島’よりも花色が不鮮明で暗色の紅色の 3 系統（一重 26 個体、蓑咲き（不完全二重） 7 個体、二重 77 個体）、未同定（7 個体）が確認された（倉重・小林 2009）。品種名不明のけら性 3 系統は能登以外では見つかっておらず、独自の系統であることが示唆されている。

このことから能登は一地域としては日本最大の江戸キリシマ系ツツジの個体数、品種数であり、全国的に見ても貴重な存在であることが明らかとなった。地域では、これら能登一帯の江戸キリシマ系ツツジの古木を「のとキリシマツツジ」と称している。

また、「三国名物志」（坂元 1804-1818）、「郡方産物帳」（著者不明 1738）等の文献調査により、1738 年以前に羽咋郡（現在の羽咋市、七尾市、中能登町、羽咋郡志賀町ならびに宝達志水町）には‘本霧島’が移入されていたこと、江戸以外にも関西からも移入された歴史的な背景についても明らかとなった。

これらの価値が認められ、2006 年に樹高 4m、枝張り 6m の‘本霧島’（コレクション番号 249、250、251、252）および 1853 年に加賀藩十三代藩主前田斉泰が観賞したと伝えられる‘本霧島’（コレクション番号 46）が石川県指定天然記念物に指定された。2008 年には‘紫霧島’としては日本最大級の樹高 1.5m、枝張 2.5m コレクション番号 30 が石川県指定天然記念物に指定された。また、2016 年には宝達志水町以北 9 市町の「のとキリシマツツジ」が「いしかわ歴史遺産」に認定されている。

能登地域の江戸キリシマ系品種古木群は、能登独自の観光資源としても注目され、能登空港「のとキリシマツツジフェスティバル」には 15,000 人以上が訪れ、奥能登 4 自治体（輪島市・珠洲市・穴水町・能登町）70 ヶ所で、4 月下旬から 5 月中旬にかけて開催される「のと

「キリシマツツジオープンガーデン」は、1万人以上の見学者が訪れている。

地元では45年以上前から古木の保有者や愛好家を中心となって地域の古木の保護育成、普及活動を行ってきた。2009年にはそれぞれの地域で独立して行なっていた保護活動を能登地域全体で高い水準で活動を行うために、有志により本申請者である「NPOのとキリシマツツジの郷」を設立した。県内外での展示会、栽培指導などの保護・普及活動を行い、地域全体保護活動の基礎的な情報とすべく、確認された全個体に登録ラベルの取り付け、品種名、大きさ、所在地等を調査した台帳「真紅の戸籍簿」の発行などの事業を展開している。

今回の申請では、「真紅の戸籍簿」に登録した能登地域の江戸キリシマ系ツツジの古木の全個体550個体を登録申請するものである。

※樹齢の判断は、株の大きさや枝の太さからでは困難なため、所有者からの聞き取りによった(例:60代の所有者からの聞き取りで、父が子供のころから同じ大きさで庭にあった等)。植物リストには400年という個体もあるが、概ね300年を超えないと推測される。

【引用文献】

赤羽 勝・油屋吉之助・船越桂市・熊倉 弘・国重正昭・野沢邦之助・鈴木吉五郎・山崎敬。

1979. 日本の園芸ツツジ. p. 4-161. 誠文堂新光社. 東京.

伊藤伊兵衛政武. 1733. 地錦抄附録(1983年翻刻版). p. 181-182. 八坂書房. 東京.

伊藤伊兵衛三之丞. 1692. 錦繡枕(1976年復刻版). 青青堂出版. 東京.

伊藤伊兵衛三之丞. 1695. 花壇地錦抄(1983年翻刻版). p. 50-64. 八坂書房. 東京.

花のプロジェクト. 2017. 真紅の戸籍簿.

<http://notokirishima.com/book/201703/HTML5/pc.html#page/1>

※現在はNPOのとキリシマツツジの郷がデータを管理.

小林伸雄・半田 高・高柳謙治・有隅健一. 2003. 葉緑体DNAのPCR-RFLP分析によるツツジ園芸品種の起源解明. 農生管技誌. 10: 143-147.

倉重祐二・小林伸雄. 2008. 発見された神奈川県立農事試験場“躑躅類調査”に見る大正時代のツツジ園芸品種と育種傾向の推察. 園学研. 7:323-328.

倉重祐二・小林伸雄. 2009. 石川県能登地方に分布する江戸キリシマ系ツツジの古木群について. 園学研. 8(3):267-271.

水野元勝. 1681. 花壇綱目(1932年翻刻版). p. 56-60. 京都園芸倶楽部. 京都.

坂元 慎. 1804-1818. 三国名物志. 金沢.

著者不明. 1738. 郡方産物帳 羽咋・鹿島郡巻. 金沢.

■申請者が保有するコレクションの種数、品種数、個体数(保有植物リストおよび写真は、別紙「保有植物リスト・写真ファイル作成要領」にしたがい提出)

樹齢100年以上の個体、7品種(本霧島278個体、蓑霧島19個体、二順霧島40個体、八重霧島62個体、紫霧島26個体、紅霧島3個体、四季咲霧島5個体)および品種名不明の「けら性」3系統(一重26個体、蓑咲き(不完全二重)7個体、二重77個体)、未特定7個体の550個体。

※品種の特徴

‘本霧島’	常緑低木。全体にヤマツツジに似るが、花冠は小さく（直径2～2.5cm）、朱赤（日本園芸植物標準色票 濃橙赤 0707）。一重咲き。
‘蓑霧島’	‘本霧島’の突然変異品種で、萼が不完全に花弁に変化した半二重咲きとなったもの。花冠の大きさと色は‘本霧島’と同じ。
‘二順霧島’	‘本霧島’の突然変異品種で、萼が白や薄紅色となり、不完全に花弁に変化した半二重咲きとなったもの。花冠の大きさと色は‘本霧島’と同じ。
‘八重霧島’	‘本霧島’の突然変異品種で、萼が完全に花弁に変化した二重咲き。花冠の大きさと色は‘本霧島’と同じ。
‘紫霧島’	花冠は藤紫（日本園芸植物標準色票 明紫赤 9706）で、一重咲き。樹形はミヤマキリシマに似て、横開する。
‘紅霧島’	花冠は桃色（日本園芸植物標準色票 明赤紫 9206）で、一重咲き。
‘四季咲霧島’	花冠は朱色（日本園芸植物標準色票 朱色明赤 0406）で、一重咲き。春と秋から冬にかけて開花する。
けら性	花冠が‘本霧島’の朱赤色よりも不鮮明で、暗朱色または淡朱色（日本園芸植物標準色票 明赤 0406）の系統で、花径は‘本霧島’よりも大きい（3～4cm）。花形には、一重咲き、萼が不完全に変化した蓑咲き、完全に花弁に変化した二重咲きがある。能登では類似の形態を持つ個体間でも開花期や花形、花色が微妙に異なることから、複数の系統があると考えられるが、各地に分散して分布しており、肉眼での区別が難しいため、系統数や特徴などについては調査中。

■申請するコレクションのこれまで報告されている総数と申請者が保有する数

全国に江戸キリシマ系ツツジの古木が残っていると推定されるが、これまでに能登では550個体、能登以外の地域では関東の群馬県立つつじが岡公園や東京都の六義園などの庭園を中心に鹿児島県から山形県・福島県までで100個体程度が確認されており、それより北では確認されていない。このことから現存する江戸キリシマ系の古木は少なくとも650個体以上と推測される。申請者が保有する個体は550個体である。

■コレクションの栽培管理状況（所在地が分散している場合は、ここに全てを列記）

管理されている植物の所在地が356カ所（輪島市68、珠洲市75、穴水町35、能登町110、志賀町51、七尾市9、中能登町6、羽咋市1、宝達志水町1）と多数に分散しているため、詳細は植物リストの所在地に記入した。

コレクションは、一部盆栽があるが、ほとんどは個人の庭園に長期間露地植えされており、管理方法は所有者によってさまざまであるが、NPOのとキリシマツツジの郷から施肥、病虫害防除を中心とした栽培パンフレットを作成配布し、長期間健全に生育するように栽培指導にあたっている。また、生育不良等の相談があった場合は、当団体で栽培指導を行なっている。

■コレクションの導入記録及びデータベース化の状況

樹齢100年以上の個体について、由来や品種名、開花期、大きさ等を確認するためのアンケートを所有者に送付して、得られたデータをエクセルでまとめている。現地で品種等を確

認し、所有者の同意が得られれば、個体管理のためのラベルを取り付けている。また、公開できる情報を「真紅の戸籍簿」としてまとめ、インターネット上で公開している (<http://notokirishima.com/book/201703/HTML5/pc.html#page/1>)。

■コレクションのラベル表記状況（栽培管理用ラベルや展示用サイン・ラベルなど）

1 辺 3 c m の四角の黒色のプラスチック製ラベルに、白抜きで「のとキリシマツツジ」+管理番号を記載し、目立たない箇所にアルミ針金で枝に吊るしている。

また、オープンガーデンを行なっている庭園には、一般開放期間中に来訪者用の看板およびのぼりを設置している。

■コレクションへの協力団体・協力者（種名の同定、導入など）

倉重祐二（新潟県立植物園長）
小林伸雄（島根大学生物資源科学部教授）
のとキリシマツツジ連絡協議会
土田の郷センチュリー会

■コレクションの長期保存のための方策と体制（増殖、栽培管理上の工夫、栽培技術者や後継者の育成、危険分散等）

1) 生育情報管理

生育管理状況の把握と能登以外への流出を防止するために、管理番号ラベルを個体ごとに付し、情報管理を 2010 年より実施している。

2) 古木保護

所有者不在宅などの委託管理事業をはじめ、オープンガーデン実施者宅への定期見回りを行う際に、管理指導や近隣の古木見回りなどを行なっている。

3) 移植管理

過疎化等により古木の管理環境が厳しくなっている現状に対し、能登町は 2018 年より能登町立「柳田植物公園」内にのとキリシマツツジ園を設け、古木の受け入れ環境を整備している。

4) 後継者育成

キリシマツツジは生育が遅いことから、盆栽仕立ては全国的にほとんど見られないが、取木や挿し木による盆栽仕立てに取り組んでいる愛好家（石川ふるさとの匠認定）の後継者育成にむけた講習会の実施や、石川県立能登産業技術専門校や地元高校生へ育成や盆栽仕立ての実習などを 2015 年から実施している。

5) 危険分散

NPO のとキリシマツツジの郷は能登に現存する 7 品種の増殖、分譲や販売を行うとともに、品種名不明な「けら性」の優良個体を島根大学、新潟県立植物園と選別し、増殖を行っている。

■コレクションの公開の現状と今後の方針、これまでの広報・利用実績（研究等を含む）

1) 「NPO のとキリシマツツジの郷」ホームページ (<http://notokirishima.com/>)

能登地域での江戸キリシマ系ツツジの古木群（のとキリシマツツジ）の概要、古木の紹介（深紅の戸籍簿）、育成管理、開花情報、苗木販売など。

2) 盆栽展示とのとクリシマツツジシンポジウムの開催

2011年3月～2019年3月の間9年間で計10回開催

会場：環境省新宿御苑、六義園・神代植物公園（東京都）、神奈川県立フラワーセンター大船植物園（神奈川県）、東山植物園（愛知県）、長居植物園（大阪府）、京都府立植物園（京都府）、新潟県立植物園（新潟県）、しいのき迎賓館（石川県）

現在3月中下旬に金沢市「しいのき迎賓館」で毎年実施

3) のとクリシマツツジフェスティバルへの出展

5月3日～5月5日に、のと里山空港で開催される「のとクリシマツツジフェスティバル」に日本一大きい推定樹齢300年の「のとクリシマツツジ」の鉢植えや盆栽を展示。

4) のとクリシマツツジオープンガーデン

奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会事務局が2008年からスタートしたオープンガーデンに協力。4月下旬から5月中旬に、奥能登の4市町（輪島市、珠洲市、能登町、穴水町）の70ヶ所以上で、選りすぐりの名木を見ることができる。1本の開花期間は1週間から10日ほどと短い、場所によって花の時期が異なるため、奥能登全体で4月下旬から5月中旬まで美しい花を觀賞することができる。

<https://www.okunoto-ishikawa.net/modules/opengarden2021/index.php?page=result&gm=1>

5) 出版

のとクリシマツツジ連絡協議会（編）. のとクリシマツツジ写真紀行. 北国新聞社出版局.

6) 調査・研究

鳳至郡柳田村盆友会（編）. 1994. 能登地方のクリシマツツジ古木の調査書一. p. 1-101. 鳳至郡柳田村盆友会.

小林伸雄・倉重祐二・久末真里奈・渡邊弘行・中務明. 2013. 日本各地に分布する江戸クリシマ系ツツジのSSRマーカーによる品種比較. 園学研12別1: 438.

倉重祐二・小林伸雄. 2009. 石川県能登地方に分布する江戸クリシマ系ツツジの古木群について. 園学研. 8(3): 267-271.

倉重祐二・小林伸雄. 2015. のとクリシマツツジガイドブック. 島根大学育種学研究室.

小林伸雄・倉重祐二. 2021. 能登半島の伝統園芸文化 のとクリシマツツジ. 島根大学育種学研究室.